

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：草津市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	日本語教育における地域連携と多文化共生推進に向けて(継続事業の3年目)
事業の目的	平成27, 28年度に引続き日本語教育の側面より多文化共生の推進に取り組みます。 市民交流プラザで毎週定期的に開催されるようになった「やさしい日本語サロン」は外国人が気軽に集える場になってきたので、これを足場に日本語教室に発展させ草津市内の日本語教室運営体制の整備を行います。 昨年度は草津市議会議員に日本語教育の必要性を認知してもらえるようになったので、今年は更に地域住民レベルにその必要性を広く公知していきます。 又、日本語教育事業の必要性を行政に認知してもらえるように、行政職員向けの研修を検討して行きます。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	1. やさしい日本語サロンが立ち上がったが認知度低く、日本語教育の必要性の市民への広報が不足している 2. 日本語教育支援者研修も、当初目的の新規参加者獲得の部分が十分行われていない 3. 日本語教室に参加の機会の少なかった外国人に活動が認知されだしたので、更に底辺を拡大して行く 4. 市会議員の参加により認知度が上がったが、まだ地域住民全体への日本語教育必要性の認知度が低い 5. 行政に多文化共生窓口の設置の必要性を訴えているが、具体的な施策になってきていない
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	1. やさしい日本語サロン活動を定期的な日本語教室に育て上げ、新しい日本語教育の拠点を作っていく 2. 日本語教育支援者研修会を今年度は、当初目的の新規参加者獲得に重点を置いていく 3. 日本語教室はさらに幅広い外国人住民に参加の機会を広げる、体験型教室を主体に運営して行く 4. 市会議員の参加を継続してもらい、今年度は外国人住民の多い地区の自治会関係者への浸透を図っていく 5. 行政職員へのやさしい日本語講座の実施を計画し、行政職員への多文化共生事業に関する理解を進めていく
事業の実施期間	平成29年6月～平成30年2月 (9か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	井上 哲也	立命館大学総務部BKC地域連携課課長
2	金網 蓉子	びわこ日本語ネットワーク代表
3	船見 和秀	ヒューマンアカデミーやさしい日本語指導者養成講座講
4	服部 英亜	草津市役所まちづくり協働課グループ長
5	加藤 進一	草津市役所広報課グループ長
6	恩地 美和	日本語教室「オリブ」代表
7	中西 まり子	地域日本語コーディネーター
8	浦 幹夫	草津市国際交流協会事務局長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年 6月15日(木) 10:00～12:00	2時間	草津市役所 「601会議室」	井上 哲也 金網 蓉子 船見 和秀 服部 英亜 恩地 美和 中西 まり子 浦 幹夫	1. 参加者の課題認識 2. 取組1「ネットワーク会議」メンバーの確認 3. 取組2「日本語教育支援者研修」 ①行政職員向けに「やさしい日本語」研修を実施する方向で進める ②新規の参加者を増やす方向での講座の開催を検討する 4. 取組4「多文化共生フォーラム」 ①テーマ「やさしい日本語で外国人が暮らしやすい町をつくるために」 ②組み立て方法は、ネットワーク会議で詳細検討する
2	平成29年 10月13日(金) 10:00～12:00	2時間	草津市役所 「201会議室」	井上 哲也 船見 和秀 恩地 美和 中西 まり子 浦 幹夫	1. 各事業の進捗度、課題の確認 ①取組1ネットワーク会議の状況：多文化共生フォーラム検討会と言う分科会を作って詳細検討している事を確認 ②取組2日本語教育支援者研修会：やさしい日本語の状況確認 ③取組3生活者のための日本語教育：各教室の状況確認 ④取組4多文化共生フォーラムの詳細内容確認 2. 第3回運営委員会での事業総括の内容確認
3	平成30年 2月15日(木) 10:00～12:00	2時間	草津市役所 「601会議室」	船見 和秀 服部 英亜 加藤 進一 中西 まり子 浦 幹夫	1. 各取組の実施状況の確認 2. 1年間の活動を振り返り、受講者アンケート結果を踏まえて事業全体の評価を行った 3. この3年間の活動のまとめと今後の活動方向の話し合いをした 4. 活動を通じて感じたことをまとめた

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	草津市内の3つの日本語教室に参画してもらい、在外外国人のニーズを共有し、日本語教室の運営に当たってもらいます。 外部有識者として昨年度までは大学関係者、滋賀県国際協会に参加してもらっていましたが、さらに幅広く県下で日本語教室活動を支援している団体にも加わってもらいます。 行政関係は昨年度より草津市役所の幅広い部署の参加を得ていましたが、今年度も継続して参加の幅を広げて行きたいと考えます。 この運営委員会の検討事項をより具体的に展開していくためにも、ネットワーク会議にはより幅広い範囲の行政関連部署、議員、外国人を雇用している企業担当者にも参加していただき、幅広い方々の意見が聞ける連携体制を構築します。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	委員長に大学関係者として立命館大学の地域連携課課長に就任してもらいました。委員には幅広い日本語教育活動を行っている方として、ヒューマンアカデミーでやさしい日本語指導者養成講座を担当されている船見さんと、BNN(びわこ日本語ネットワーク)の代表をされている金綱さんに加わって貰い、この活動が日本語教育の普及に向けて進めるように指導いただいた。行政の立場よりは、草津市役所の外国人担当窓口であるまちづくり協働課と情報公開の窓口の広報課に加わって貰えた。それに草津市内で日本語教室を開催している、オリーブ、草津市国際交流協会の代表に加わって貰った。幅広い立場の方に、運営委員に加わって貰えたことにより、課題であった地域住民への日本語教育の必要性の認知度が確実に向上することが期待される。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞

取組 1	取組の名称		日本語教育を中心とした多文化共生における地域連携のためのネットワーク会議						
	取組の目標		運営委員会の課題目標を確認した後、具体的な「生活者の外国人」のニーズを把握し、具体策を立案して行くための「ネットワーク会議」を設置して運営して行きます。平成28年度は草津市役所内の各関連部署の方に委員として加わって頂いたことにより「やさしい日本語サロン」と言う実績が残せたので、今年度は県レベルでの関連部署の参加を求め、さらに広範囲での日本語教育の必要性の広報に力を入れていきます。						
	取組の内容		「ネットワーク会議」のメンバーには昨年度に引き続き大学関係者、草津市行政担当部署の担当者、草津市議員、各日本語教室代表者、外国人を雇用する企業担当者、外国人住民代表者に加えて、滋賀県国際協会担当者にも加わって貰い、より強固なネットワーク構築を目指します。 1. 様々な活動をしている人達が一堂に会して草津市の多文化共生社会実現に向けての最大の課題の、生活者としての外国人への日本語教育の必要性の認識を高めます。 2. 各教室の学習者のニーズに合わせた教室運営を進めるため、内容については各教室の自主性を尊重します。 3. 今年度は草津市内14学区のまちづくり協議会を中心とした地域の人達に、外国人に対する日本語教育の必要性を理解していただく活動を重点としていきます。 4. 行政担当窓口の職員に「やさしい日本語」を理解してもらえるような研修の場が作れるようにしていきます。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		「ネットワーク会議」のメンバーの人選により幅広い行政の関連部署、各種団体との連携が図れ、日本語教育の必要性の周知に有効な体制が構築されます。 この体制を使い、地域の幅広い層の人達に日本語教育の実施状況を確実に伝えて行けるようにします。						
	取組による日本語能力の向上		メンバーに外国人の人に入ってもらえる事により、外国人が本当に必要としている実践的な日本語教室の運営につなげることが出来るので効果は大きいです。						
	参加対象者						参加者数 (内 外国人数)	17人 (5人)	
	広報及び募集方法								
	開催時間数		総時間 12時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		立命館大学、草津市役所、草津市未来研究所、草津市議会、草津市志津南まちづくり協議会						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	香港	フィリピン	インドネシア	タイ	ペルー
		2	1		1				1

日本人:12名

実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年 6月19日(月) 10:00～12:00 第1回 ネットワーク会議	2	草津市役所 「201会議室」	12名 宮下 聖史 溝内 辰夫 大塚佐緒里 大溝 奈緒 Jie Zhang 谷口 テボラ 中原 勝一 西垣 和美 恩地美和 鶴田真理子 中西 まり子 浦 幹夫	・全体の課題の認識 ・各取組内容の確認	1. 参加者の自己紹介 2. 事業全体の趣旨・課題の再認識 3. 運営委員会議事内容の認識共有 4. 取組2「日本語指導者研修」 ・やさしい日本語の行政職員向け研修 ・新規支援者獲得活動への注力 5. 取組3「日本語教室の実践」 ・KIFA/オリーブの計画の確認 6. 取組4「多文化共生フォーラム」 ・テーマ/構成/広報について	—	—	
2	平成29年 7月19日(水) 10:00～12:00 第2回 ネットワーク会議	2	草津市役所 「201会議室」	11名+1名 宮下 聖史 溝内 辰夫 大塚佐緒里 大溝 奈緒 Jie Zhang 中原 勝一 西垣 和美 恩地美和 鶴田真理子 中西 まり子 浦 幹夫 【オブザーバー】 岩佐 卓貴	・ネットワーク会議の目的/目標の再認識 ・各取組2, 3, 4の具体策の検討	1. 取組2「日本語指導者研修」 ・行政職員への協働研修に位置付けてもらい、1, 2回をそれぞれにあてる 2. 取組3「日本語教室の実践」 ・外国人に関心の高い防災に対する計画を2回組み込む 3. 取組4「多文化共生フォーラム」 ・この内容は、分科会を設けて詳細検討する方向で進め、そのメンバーを選任 4. ネットワーク会議の目的/目標 ・行政で日本語教育を担う、多文化共生窓口設置の必要性 ・草津市での多文化共生窓口の設置に対する具体的施策の検討	—	—	

3	平成29年 9月20日(水) 13:30～15:30 第1回 多文化共生 フォーラム 検討会	2	草津市役所 「201会議室」	11名+1名 宮下 聖史 溝内 辰夫 大溝 奈緒 フォン 刘中京 黄潔好 重松 毅子 吉積 尚子 鶴田真理子 中西 まり子 浦 幹夫 【オブザーバー】 恩地 美和	・参加者の「多文化 共生フォーラム」に 対する考えのベクト ル合わせ ・具体的な「多文化 共生フォーラム」の 検討	1. 参加者自己紹介 2. 現在までの運営委員会・ネット ワーク会議における「多文化共生 フォーラム」の検討内容確認 3. 参加者各自が考える「多文化共生 フォーラム」のイメージ確認 4. 具体的な「多文化共生フォーラム」 の内容議論 5. 事前開催Work Shop「UDCBKセミ ナー」の内容確認	—	—
4	平成29年 10月12日(木) 10:00～12:00 第3回 ネットワーク会議	2	草津市役所 「201会議室」	11名 宮下 聖史 溝内 辰夫 大塚佐緒里 Jie Zhang 中原 勝一 西垣 和美 谷口 デボラ 恩地美和 鶴田真理子 中西 まり子 浦 幹夫	・事業全体の実施状 況の確認 ・多文化共生フォー ラム検討会の検討 事項の確認と指示 事項検討	①取組2「日本語教育支援者研修会」 の具体的取組内容確認 ②取組3「生活者向上に向けた日本 語教育」の具体的内容確認 ③取組4「多文化共生フォーラム」の 内容に関して、検討会での議論内容 を確認し、方向を示す ④取組4のための事前Work Shopとし てのUDCBKセミナーの内容確認	—	—
5	平成29年 10月17日(火) 16:00～18:00 第2回 多文化共生 フォーラム 検討会	2	草津市役所 「201会議室」	6名 宮下 聖史 溝内 辰夫 大溝 奈緒 鶴田真理子 中西 まり子 浦 幹夫 【オブザーバー】 恩地 美和	・「多文化共生フォー ラム」の内容確定 ・具体的内容確定	①「多文化共生フォーラム」の現状ま での決定事項の確認 ②全体の流れの検討 ③先進地事例発表内容の確認 ④事前Work Shop(UDCBKセミナー) の具体的実施方法検討 ⑤多文化共生フォーラムの中のWork Shopの方法検討	—	—
6	平成30年 1月11日(木) 10:00～12:00 第4回 ネットワーク会議	2	UDCBK (南草津)	12名 宮下 聖史 溝内 辰夫 大塚佐緒里 Jie Zhang 中原 勝一 西垣 和美 谷口 デボラ 恩地美和 鶴田真理子 中西 まり子 浦 幹夫	・「多文化共生フォー ラム」の内容最終確 認 ・シナリオの確認	①「多文化共生フォーラム」の全体構 成の確認 ②第1部先進地事例内容確認 ・4つの発表内容の資料確認 ③第2部Work Shop内容確認 ・ファシリテーターの役割確認 ・課題の明確化 ④参加者に関して	—	—

(1) 特徴的な活動風景 ※ネットワーク会議と言う会議体での活動なので、写真添付は1例としました。各回の活動内容は議事録を参照下さい。

○取組事例①

【第3回ネットワーク会議 平成29年10月12日】

委員12名中11名が参加出来たネットワーク会議。

9月20日に行われた分科会の内容を確認し、次回の分科会の課題を検討した。

分科会で新しい他分野、多国籍のメンバーが数多く参加してくれたことにより、新しい視点の意見が出て、多文化共生フォーラムの全体像が確立できたことは大きかった。

そこへの課題を整理することにより、全体構想がまとまった。



(2) 目標の達成状況・成果

当初4回で計画していたネットワーク会議ですが、取組4の「多文化フォーラム」の内容を充実させて検討する為に、分科会として「多文化フォーラム検討会」を組織して、詳細の検討に入った。新たなメンバーにも加わって貰ったことで、新しい視点の意見も出て内容は充実した。特に外国人の視点での本音の話をしてもらう為に、委員に多くの外国人に依頼したことが良い方向での話し合いとなった。

外国人の国籍も中国、ペルー、ベトナム、香港と幅広い国の方に参加頂いたことにより、意見の幅が広がりが良かった。

取組2に関しては、今年度の事業開始時点で電通の方より、柳川市のやさしい日本語ツーリズムの紹介を受けたことが、草津市職員へのやさしい日本語研修会の実施に繋がり、2回の開催で59名の市役所職員の受講に繋がった効果は大きかった。

取組3の日本語教室の実施に関しては、過去2年間の実績より外国人が出来るだけ参加しやすい内容・場所・時間に留意して参加型の教室運営が出来た。

取組4の「多文化共生フォーラム」に関しては、この会議での最大の討議内容となり、充実した内容のフォーラムが構築できた。

会議より出た意見で他の市町国際交流協会の先進地事例発表を行うという内容に対し、甲賀市国際交流協会、湖南市国際協会と交渉しそれが実現でき、又当日は湖南市国際協会の会長始め多数の関係者に参加いただき、その方もWork Shopに参加して頂いたので効果が大きかった。

又、2年間の課題でもあった地域自治会関係者の参加者に関しても、今回先進地事例を話してもらったベトナムのフアンさん、フィリピンのパイリンさんの参加効果大きくその事例に関する、多くの地域自治会関係者の参加があり効果は大きかった。

3年間の課題であった、地域住民への日本語教育の必要性の認識が大きく広がった効果は大きい。

(3) 今後の改善点について

1年目の活動では、議事内容に関して運営委員会との重複等が問題になるという課題が発生した。

2年目の活動ではネットワーク会議の内容が見直されたが、まだ完全にその役割の明確化が出来きれなかった。

3年目にあたる今回は、ネットワーク会議の取組内容が明確になり、議論が深化出来、特に取組4の多文化共生フォーラムについてはその内容の充実のために分科会活動にまで発展し、当初計画の4回に対して、分科会2回を加えるまでの状況に発展できた。

今度この活動に取組むときの、ネットワーク会議の重要性を認識できたことと、その会議の活動内容の明確化が出来た効果は大きい。

＜取組2＞									
取組2	取組の名称		日本語教育支援者研修						
	取組の目標		平成28年度は初心者コースを火曜教室、日曜教室に分けて各3回(計6回)を新規参加者獲得を目指して開催し、それに「やさしい日本語」1回と中上級向けを3回開催しました。今年度は「やさしい日本語」を行政担当者向けに開催すると、研修会を既得者のレベルアップ研修会と新規参加者獲得講座に分けて開催して行きます。						
	取組の内容		「やさしい日本語」研修を行政担当者向けの研修会としての開催を検討します。 日本語教育支援者の新規参加者獲得を目標とした研修会を開催します。 1. 「オリーブ」「シブス」「草津市国際交流協会」に参加している支援者を中心に募集します。 2. 参加者の幅を広げるために、県下各市町の国際交流協会を通じても募集します。 (滋賀県国際交流協会協議会にて議題として取上げて検討してもらい承認を得ています) 3. 2時間の研修を10回開催し、参加者のニーズに合わせて開催日を調整します。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		2年間の事業で新規の日本語教育支援者への参加者がありその効果は確認できています。 又、3教室の中の人材の交流も進み、オリーブの企画した日本語教室に草津市国際交流協会のメンバーが講師として参加する等の成果が出ているので、今年度はこの交流を更に進めて行きます。						
	取組による日本語能力の向上		日本語教育支援者の研修会の開催により、外国人に日本語を教える事の必要性、重要性の認識が高まり支援者のモチベーションを上げる効果が出ています。 そのことは日本語教育の質の向上に寄与しています。						
	参加対象者		日本語教育に関心のある方すべてで制限を設けない				参加者数 (内 外国人数)	280人 (19人)	
	広報及び募集方法		草津市の広報「くさつ」に掲載すると同時に、チラシ作成して関係部署に配布						
	開催時間数		総時間 20時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		オリーブ、シブス、びわこ日本語ネットワーク、滋賀県内近隣の国際交流協会、ヒューマンアカデミー						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		1				8			
		アメリカ人(10人)、日本人(261名)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年8月24日 (木) 13:30～15:30	2	草津市役所 大会議室	33	「やさしい日本語で 外国人とコミュニ ケーションしよう！」	草津市役所職員向けの「やさしい日本語」の講義と実践訓練	船見 和秀	岸本 美津子 松村 文子 兼松 好恵	
2	平成29年8月25日 (金) 9:30～11:30	2	草津市役所 大会議室	26	「やさしい日本語で 外国人とコミュニ ケーションしよう！」	草津市役所職員向けの「やさしい日本語」の講義と実践訓練	船見 和秀	高橋 幸枝 畑中 英理子 福田 一也	
3	平成29年10月1日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	32	「やさしい日本語の 作り方講座Ⅰ」	「やさしい日本語の作り方講座」の基本理論を学ぶ	船見 和秀	①松原 恭平 ②ボンビニット テイハワ ン ③ライモンズ フェリス アティサハラ ④モエバ シラバット ⑤ベルメホジェフィバルボ ン	
4	平成29年10月8日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	25	「やさしい日本語の 作り方講座Ⅱ」	「やさしい日本語の作り方講座」の基本講座で学んだ内容を身に付けるための、Work Shop」	船見 和秀	松原 芳枝 津田 幸子	
5	平成29年10月15日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	30	「やさしい日本語の 作り方講座・Work Shop」	「やさしい日本語の作り方講座」の理論とWork Shopで学んだことの実践講座	船見 和秀	①高市 寿美子 ②ボンビニット テイハワ ン ③モエバ シラバット ④ベルメホジェフィバルボ ン ⑤ゲン クアン ミ ⑥何君潔 ⑦ドークオック ヒエップ	
6	平成29年10月28日 (土) 10:00～12:00	2	草津市内 各所	28	「やさしい日本語の 作り方講座の実践 講座」	訪草中のボンティアック市中学生使節団員を、やさしい日本語で草津市内を案内した	船見 和秀	中西 まり子	
7	平成29年11月5日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	24	新規参加者講座 「活動始めるための 『イロハ』」	・私ってこんな人”コラージュ”を作ろう ・私たちを取り巻く状況の認識	船見 和秀	丹羽 昌子 前田 智代	
8	平成29年11月5日 (日) 13:00～15:00	2	草津市立 まちづくり センター	26	新規参加者講座 「活動始めるための 『イロハ』」	・日本語学習支援をする上での留意点 ・日本語と国語の違い	船見 和秀	休石 信子	

9	平成29年11月19日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	28	新規参加者講座 「学習者と会話を続 けるコツ」	・言葉だけでどこまで伝わる？ ・変わる流れについていく	船見 和秀	樋口 真由美 内田 幸夫
10	平成29年12月3日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	28	新規参加者講座 「学習者の未来を拓 く学習支援」	・漢字語彙へのアプローチ ・3行日記ワンランクアップ作戦	船見 和秀	桧川 久美子 津田 幸子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年8月24日】

第1回と第2回を草津市役所職員に対するやさしい日本語の研修会に当てて実施し、市役所各部署より33名の参加者で開催された。ヒューマンアカデミー日本語指導者養成講座講師の船見先生の指導で行ったが、各グループのWork Shop時の作業補助者として3名の日本語指導者養成講座卒業生に大阪より参加してもらった。参加者にとっては新しい分野の話という事で、最初は緊張した雰囲気であったが、講義・Work Shopが進むと皆積極的に補助者との会話、又参加者同士がやさしい日本語で話す等、大きな効果があった。参加者アンケートを見ると、外国人対応で悩んでいたが新しい視点の話で大いに共感できた、継続した開催を望む等の前向きな感想が多かった。25日の2回目も26名の参加者があり、こちらも計画通りに進められた。



○取組事例②

【第9回 平成29年11月19日】

このシリーズ(7回～10回)は、新規参加者の獲得を目指す講義であったが28名の参加者があった。学習者と会話を続けるコツをサブタイトルにした回であったので、Work Shopに重点が置かれ参加者は7テーブルに分かれての学習となった。このシリーズの研修会参加者より、KIFA、オリーブにボランティア日本語指導者として参加してくれる人が出たことによりこの研修会の効果が検証できる。



(2) 目標の達成状況・成果

第1、2回は草津市職員向けの「やさしい日本語」研修会と位置付けて実施でき、行政職員向けに日本語教育の必要性を広報できる良い機会となった。
第3～6回は既修得者を主体の研修会としたが、参加者が常に30人近く集まり効果があり、特に第6回目は訪問中の草津市の姉妹都市であるミシガン州ポンティアック市よりの中学生使節団を、やさしい日本語で草津市内を案内するというイベントが実施出来た。
第7～10回は新規支援者獲得講座と位置付けたが、平均26名の参加者が集まり、この講座の受講者よりKIFA、オリーブへの新規ボランティアが出てきたことでこの講座の効果が実証できた。

(3) 今後の改善点について

日本語教育支援者に関心のある方が多いことは、今年度の研修会への参加者が多かったことで判る。今年度の研修会全体を見ても、無料であるという事と講師に実績のある方を招いたことにより、参加者が滋賀県全域より集まり(長浜市、米原市、東近江市、湖南市、甲賀市)、このような研修会のニーズが高いことがわかる。3年間の経緯を見てもこのような研修会は、現状のボランティア指導者のレベルアップ研修会と、新規参加希望者に対する新規獲得者向け入門研修会に分けて実施することが効果的であることがわかった。やさしい日本語への取組が拡大する時期であり、これへの取組も今後の課題と考えられる。

＜取組3＞									
取組3	取組の名称		地域住民としての生活向上に向けた日本語教育						
	取組の目標		平成28年度事業で「やさしい日本語サロン」を毎週定期的に、草津市民交流プラザで開催することが出来るようになりました。この場所を拠点の1つとして日本語教室の運営にあたっていきます。平成28年度は外国人のニーズの高かった内容を組み込んだ「体験型教室」を運営して外国人には好評であったので、この形の教室を基本に運営し、参加者の幅を広げて行きます。						
	取組の内容		「ネットワーク会議」で2年間の活動の実績内容を評価したうえで今年度計画を決定して行きます。具体的には各教室の特徴を生かした教室運営を行なっていきます。 1. オリーブ教室は好評であった、地元に密着した教室「関西弁講座」「じもとーく(地元について語ろう)」を主体に今年度も取り組んでいきます。 2. 草津市国際交流協会も、平成28年度実施した体験型教室を更に深堀し、外国人のニーズに合った教室を運営して行きます。 3. 更に平成28年10月より、定期的に草津市民交流プラザのUDCBK(アーバンデザインセンターびわこ・くさつ)で開催されている「やさしい日本語サロン」の運営を確実なものにし、日本語教育の拠点の1つとして確立していきます。教室運営に当たっては、課外授業等も積極的に取り入れて行きたいので草津市の協力を得て、対応できる施設・資材を積極的に活用して行きます。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		市の施設の見学(給食センター、ゴミ焼却場、小学校等)を、体験型教室に取り入れる事により、参加者の幅も広がったし、市の担当部署との話し合いを持つことにより、関係者のこの事業に対する理解度が上がってきました。又、報道への積極的な広報が実を結び、朝日新聞社に取り上げられるなど体制整備に役立ってきています。						
	取組による日本語能力の向上		通常生活をしていく上で必要な日本語を学ぶことを主眼にしています。地域社会に外国人が溶け込んでいくのに必要で、地域に住む人たちとの交流に役立つ日本語を教えていく事で、外国人の日本社会への適用が進んでいきます。地域への順応が進むと、本人のさらなる日本語学習意欲のアップに繋がっていくと考えられます。						
	参加対象者		日本語能力の習得に意欲のある外国籍住民				参加者数 (内 外国人数)	480人 (250人)	
	広報及び募集方法		広報「くさつ」、草津市国際交流協会のホームページ、チラシを配布することによる関係者への広報						
	開催時間数		総時間 69時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		草津市役所まちづくり協働課、草津市役所危機管理課、守山警察署、草津市剣道連盟						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		125	30		8	25	25	7	12
		バングラディシュ(12人)、台湾(4人)、香港(2人)、日本人(230人)							
実施内容									
【中上級クラス】									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年7月8日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	9	俳句を作る	①俳句の構成について ②季語の話 ③自分で俳句を作ってみる		中村 健治	田中京子 中西 まり子
2	平成29年12月9日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	26	敬語とマナー	①敬語の種類の勉強 ②敬語を使う場面を学ぶ		丹羽 昌子	田中 京子
授業時間		4							
【KIFA初級クラス】									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成29年6月20日 (火) 10:00～12:00	2	UDCBK (南草津)	11	病院のかかり方	①病院で診察の手続きができる ②医者に症状を言うことができる		堀野 善康	鶴田 真理子 草川 たづ子
2	平成29年10月7日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	23	人と知り合いになる	①日常のあいさつができる ②自己紹介ができる ③引っ越しのあいさつができる		休石 信子	高市 寿美子 山本 由佳
3	平成29年10月14日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	15	買い物をする	①店で表示を見て買いたいものを探す ②店で買いたいものはどこか店員に聞ける		久保 千草	樋口 真由美 渡辺 智子
4	平成29年10月21日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	11	電車やバスで出かける	①切符を買うことができる ②電車に乗ることができる ③バスに乗ることができる		中西 まり子	桧川 久美子 渡辺 智子
5	平成29年10月28日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	12	郵便局や銀行を利用する	①郵送の手続きができる ②送り状を書くことができる ③ATMを使うことができる		桧川 久美子	高橋 小百合 辻 博子

6	平成29年11月11日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	10	日本語でパソコン を入力する	①ひらがな・カタカナをパソコンで入力 することができる	樋口 真由美	久保 千草 山本 由佳
7	平成29年11月18日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	12	病気になったら	①薬局で薬を買うことができる ②症状や希望にあった病院を探すこ とができる	津田 幸子	鶴田 真理子 辻 博子
8	平成29年11月25日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	12	安全に暮らす	①近くの人に助けてもらうことができる ②110番に電話ができる ③119番に電話ができる	高橋 小百合	中西 まり子 山本 由佳
9	平成29年12月2日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	7	役所に行く	①住民登録をすることができる ②ガス、電気、水道などの申込みが できる	平井 早裕里	渡辺 智子
10	平成29年12月9日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	17	ゴミを出す	①地域のごみの出し方がわかる ②ごみを分別することができる ③大型ごみを出すことができる	鶴田 真理子	津田 幸子 辻 博子
11	平成29年12月16日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	20	日本文化に親しむ 【年賀状】	①年賀状について知る ②母国の家族に向けた年賀状を書く	田中 京子	休石 信子 渡辺 智子
12	平成30年1月6日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	8	日本を楽しむ	①日本でいきたいところについて人に 情報を聞くことができる ②旅行の感想を言うことができる	高市 寿美子	平井 早裕里 山本 由佳
13	平成30年1月13日 (土) 10:00～12:00	2	立命館大学	21	防災を学ぶ	①防災用語について学ぶ ②防災時の行動パターンを学ぶ	川辺 佐登美	松原 芳枝 辻 博子
授業時間		26						
【KIFA体験型クラス】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年6月27日 (土) 10:00～12:00	2	UDCBK (南草津)	12	こどもの「ことば」 を考える	①子育てママに聞く、日本語の難しさ ②子供ことばの意味を考える	堀野 善康	高市 寿美子 津田 幸子
2	平成29年7月9日 (日) 9:30～12:30	3	野路町 新宮会館	140	自治会と協働 ベトナム文化	①自治会と外国人の交流事例 ②今後の多文化共生社会の目指すもの	Phong Dinh	Nguyen Dung Bui Thi Thao
3	平成29年7月23日 (日) 10:00～12:00	2	草津南 消防署	15	多文化防災訓練	①外国人による機能別消防団の訓練 ②災害時に良く使われる日本語の勉強	(危機管理課)	草川 たづ子 田中 京子
4	平成29年8月22日 (火) 9:30～12:30	3	UDCBK (南草津)	20	地元の特産を 知ろう、作ろう	①地元特産の鮎ずしの活用方法 ②地域に地元特産品を広めるには	井上 裕子	鶴田 真理子 中西 まり子
5	平成29年9月10日 (日) 10:00～12:00	2	草津側跡地 De愛ひろば	40	防災シェイクアウト	①草津市主催のシェイクアウトに参加 ②機能別消防委団員の訓練	(危機管理課)	ジェ グン
6	平成29年11月12日 (日) 10:00～12:00	2	栗東さくら イベント広場	100	交通安全について	①「世界と出会う交流広場」で外国人 向けの交通安全教室の開催	(守山市 警察署)	高橋 小百合 高市 寿美子
7	平成29年11月23日 (木) 10:00～12:00	2	草津市 武道館	11	剣道体験	①外国人が剣道の基礎を学ぶ ②防具をつけて模範試合に挑戦	(草津市 剣道連盟)	鶴田 真理子 津田 幸子 丹羽 昌子
8	平成30年1月14日 (日) 10:00～13:00	3	UDCBK (南草津)	30	ハラルを理解しよう	①ハラルの基礎知識を知る ②ハラル料理を作るには	(ヤスミン夫妻)	黒川 清澄 樋口 真由美
授業時間		19						

【オリーブ教室】								
1	平成29年7月30日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	9	関西弁講座Ⅰ	①関西弁と共通語の違いの学習 ②関西弁特有の言葉や文法表現	杉山 美子	小春 京子 内田 幸夫
2	平成29年8月20日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	7	関西弁講座Ⅱ	①関西弁特有の言葉の説明 ②関西弁での会話練習(3人1組で)	杉山 美子	後藤 美子 内田 幸夫
3	平成29年8月27日 (日) 10:00～12:00	2	草津市立 まちづくり センター	7	関西弁講座Ⅲ	①関西弁のイントネーション学習 ②カードを使い、その言葉で関西弁を 話すゲーム	後藤 美子	杉山 美子 内田 幸夫
4	平成29年9月23日 (土) 18:30～20:30	2	草津市立 まちづくり センター	34	防災学習Ⅰ	BNN作成の防災学習テキスト使用 ①日本で多い地震、台風の説明 ②台風時の準備をグループで話合う	福井 えり	内田 幸夫 内田 千恵子
5	平成29年9月30日 (土) 18:30～20:30	2	草津市立 まちづくり センター	28	防災学習Ⅱ	BNN作成の防災学習テキスト使用 ①「お知らせ」の意味を説明 ②非常持出し品をグループで話合う	内田 幸夫	福井 えり 内田 千恵子
6	平成29年11月11日 (土) 18:30～20:30	2	草津市立 まちづくり センター	35	オノマトペ	①オノマトペ(擬音語、擬態語)の意 味説明 ②オノマトペの実例紹介	内田 幸夫	永井 章子 内田 千恵子
7	平成29年11月12日 (日) 13:00～15:00	2	東近江市	28	オノマトペ実習	河辺いきものの森で会話訓練 ①クイズラリーをして理解度を深める ②オノマトペを使った会話練習	恩地 美和	内田 幸夫 吉田 瑛美
8	平成29年12月15日 (金) 18:30～20:30	2	UDCBK (南草津)	6	介護の現場で外国 人の語り	①介護現場で働く人より困った事を聞 く ②対策案を参加者一緒に考えた	恩地 美和	後藤 美子 花岡 由縁 内田 千恵子
9	平成29年12月16日 (土) 18:30～20:30	2	草津市立 まちづくり センター	44	年賀状を書こう	①年賀状の意味、内容、絵柄につい ての説明 ②オノマトペの実例紹介	吉田 瑛美	遠藤 純江 小春 京子
10	平成30年1月20日 (土) 18:30～20:30	2	草津市立 まちづくり センター	39	特別な日の行事と 食べ物	①7か国の代表が、母国の特別な日 と食べ物を説明 ②一緒にそれぞれを体験する	福井 えり	豊村 信良 後藤 美子 KAMALA KANDEL
授業時間		20						

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【KIFA初級クラス第1回 平成29年6月20日、KIFA体験型クラス第5回 平成29年9月10日】

初心者クラスでは「病院のかかり方」を取上げたが、これは草津市に住む外国人の人達のニーズが高かったテーマであり、参加者よりも沢山の質問が出て開催の効果は大きかった。

体験型クラスは9月10日に草津市内の広域で行われた、防災シェイクアウトのイベントに参加することが出来た。

このイベントにはKIFA日本語教室に参加している留学生も団員となっている草津市機能別消防団員も参加し、防災訓練に出てきた地域住民と一緒に避難訓練、誘導訓練を実施した。地域住民の中には、多数の外国人住民も参加した。



○取組事例②

【KIFA初級クラス第2回 平成29年10月7日、第3回 平成29年10月14日】

初級クラスの前半の授業であり、「人と知り合いになる」「買い物をする」をテーマに生活に密着した内容を取上げた。

「人と知り合いになる」では、日常の挨拶の基本より自己紹介が出来るまでを学び、「買い物をする」ではスーパー等のチラシを見ながら買いたいものを探すことや、その買いたいものが何処にあるかを店員に尋ねる方法等の具体的な内容を学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

KIFA教室関係では、初級クラスを13回開催したが参加者も平均10名以上が集まり、日常生活で困っていることをテーマに取組学習効果が上がった。

体験型クラスでは、KIFAが実施するイベントとの共催を進め、講師には行政関係者(市役所関係課、警察署、消防署)の協力を得たことにより、対象の地域住民との交流を含めて、日本語教室の必要性の地域住民への浸透に貢献できた。

中上級クラスでは、敬語とマナー、俳句等を取上げたことにより外国人のニーズに合った教室が運営できた。

再委託先のオリーブ教室も、新しい受講者が増えたことにより昨年度好評であった、関西弁講座、防災学習を中心に行った。

受講者の受け取り方は、アンケート結果にも表れているように、非常に好評であり、このプログラム実施の効果は大きかった。

(3) 今後の改善点について

3年目の今年度は講師、補助者を含めた関係者の事前ミーティングを行なえたことにより、実施可能な計画が事前に確立できた事が大きかった。

初級クラスは常にニーズがあり、今後の日本語教室運営の基礎となるので実施記録を確実にして、今後の参考にしていきたい。

体験型クラスは、幅広い関係者の協力が必要であるが、実施する効果は大きいので毎年継続していけるプログラムにしていきたい

＜取組4＞

取組4	取組の名称		多文化共生フォーラムの開催									
	取組の目標		平成27年度は「シンポジウム」、平成28年度は「セミナー」の形で日本語教育の必要性の広報活動を行ってきましたが、今回はより深く「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の必要性や、多文化共生社会実現の推進を語り合う「フォーラム」形式での開催を計画し、その公知を広く行っていきます。									
	取組の内容		1年目は「シンポジウム」と言う公開討論の場で日本語教育の必要性を公知出来ました。 2年目はワールドカフェ形式の「セミナー」で少人数による討論の場で必要性の議論を深めました。 今年度は3年間の成果を踏まえて、フォーラム形式での公開討論会として活動の成果を公知していきます。 3年間の活動全体を振り返りその成果を確認すると同時に、まだ残されている課題を確認し次年度以降の活動の方向性を見出していけるような公開討論会にしていきます。 3年間の活動を通じて協力頂いた学識経験者(大学関係者)に参加していただくのは勿論、草津市行政担当者、関連部署担当者、外国人住民代表にも参加いただきフォーラムの実効を上げていきます。 フォーラムには、学識経験者、他市町国際交流協会関係者、KIFA関係各団体関係者等の幅広い人たちの参加を計画し、効果を高めて行きたいと思います。									
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
	取組による体制整備		3年間の活動で行政の方達の中でも、多文化共生社会の実現に向けての取組の中で、今回の日本語教育事業の必要性の理解が高まり、体制の整備が大きく進んできました。 行政の連携などさらに課題を抽出し活動の幅を広げ、多文化共生社会の実現に向けて進んでいきます。									
	取組による日本語能力の向上		活動全体で幅広い外国人の方たちに参加頂いたので、対象の人達の範囲は広がりました。 又、継続することによりそれぞれの方たちの、日本語習得レベルは確実に向上してきています。									
	参加対象者						参加者数 (内 外国人数)		83 人 (18人)			
	広報及び募集方法											
	開催時間数		総時間 2.5 時間(空白地域 時間)									
	主な連携・協働先		草津市議会・草津市役所・滋賀県国際協会・甲賀市国際交流協会・湖南市国際協会・草津未来研究所・立命館大学 びわこ日本語ネットワーク・多文化共生支援センター									
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル			
		2	5		1	5				3		
		ペルー(1 人)、ハンガリー(1 人)、日本(65人)										
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容			指導者名	補助者名		
1	平成30年1月21日 (日) 13:30~16:00	2.5	草津市役所 特大会議室	83	多文化共生 フォーラム 「多様性のもたらす 豊かな地域社会へ」	1. 先進地事例発表 ①「ともにいきる地域づくり」 ②「広報のやさしい日本語版」 ③「外国からの人々と野路町の人々のハートフルなものがたり」 ④「介護の現場で働く外国人の語り」 2. ワークショップ ①外国人と日本人が共に暮らすために！違いを活かしたまちづくりとは ②住みやすいまちづくりに向け、地域ができること ③事例を聞いて外国人と日本語で会話できるよう、それぞれができること 3. 成果発表 ①10班よりそれぞれの検討内容発表			大河原 佳子 鶴衛 正義 フウーン パリン・キンヨース 谷口 デボラ 宮下 聖史 溝内 辰夫 中原 勝一 服部 英亜 服部 孝政 白鳥 克哉 恩地 美和 鶴田 真理子 中西 まり子	Le My Linh Bui Thanh Thao Huyen Trang 松村 ベイリー ン 川崎 アルマ		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【多文化共生フォーラム 平成30年1月21日】

第1部として4名の方より事例発表を行って頂いた。甲賀市国際交流協会よりは多文化共生の取組内容を、湖南市国際協会よりは広報のやさしい日本語化への取組内容を説明頂いた後、ベトナムのフーンさんよりは自分の住んでいる地域住民と協力して行った「ベトナムDAY」の成功事例を、最後にフィリピンのパイリンさんよりは介護職員として日本で働く上での言葉を始めとする悩みの話をして頂いた。4人の話を聞いたうえで、参加者83名が10のテーブルに分かれ、「外国人と日本人が共に暮らすために！違いを活かしたまちづくりとは」「住みやすいまちづくりに向け、地域ができること」「事例を聞いて外国人と日本語で会話できるよう、それぞれができること」という課題について話し合った。最後に各グループより討議内容に関して発表してもらい、問題点・課題を共有した。



(2) 目標の達成状況・成果

今回のフォーラムは、この3年間の活動で日本語教育の必要性の認識が、どれだけ幅広い範囲に又どれだけ深く浸透で来たかを確認する目的で開催された。

幅広いという観点では、他市国際交流協会(湖南市、甲賀市)の協力を得て先進地事例を発表してもらえ、フォーラム自体に滋賀県国際協会、草津市役所各課(まちづくり協働課、広報課、危機管理課)、立命館大学関係者(講師、職員、学生)の参加を得た。

地域住民参加の観点では、ベトナムコミュニティのメンバーと一緒にベトナムDAYを開催した野路町自治会のメンバー、それにネットワーク会議に参加してもらった志津学区の元まちづくり協議会会長の参加と、地域住民への広がりも確認できた。

Work Shopでも課題に対する議論が活発に行われ、各グループより様々な提言がなされた。

(3) 今後の改善点について

今回は事前のネットワーク会議の「多文化共生フォーラム検討委員会」を含めて、事前の検討が十分になされたので内容が充実できた。

今後もこのような「シンポジウム」「セミナー」「フォーラム」を実施する時は、今回実施したように事前の検討会の設置が重要とわかった。

そのメンバーにも出来るだけ幅広い部署の方、又幅広い国籍の方に参加いただき議論の幅を広げて行きたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

平成27、28年度に引き続き日本語教育の側面より多文化共生の推進に取り組みます。
市民交流プラザで毎週定期的に開催されるようになった「やさしい日本語サロン」は外国人が気軽に集える場になってきたので、これを足場に日本語教室に発展させ草津市内の日本語教室運営体制の整備を行います。
昨年度は草津市議会議員に日本語教育の必要性を認知してもらえるようになったので、今年は更に地域住民レベルにその必要性を広く公知していきます。
又、日本語教育事業の必要性を行政に認知してもらえるように、行政職員向けの研修を検討して行きます。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

取組2では市役所職員向け「やさしい日本語」研修会が実施出来たし、新規指導者獲得講座では参加者よりボランティア指導者に応募する者が出てその効果は大きかった。
取組3では総事業時間が69時間と計画値を超え、特に体験型クラスでは行政関連部署、大学関係者、その他団体との関係が強化でき日本語教室の必要性の認知度を地域で広げるのに効果があった。
取組4は事前準備が周到に行えたことにより、計画通りの進行が出来、Work Shopでも様々な階層の人が外国人も一緒に住みやすい町を作るにはどうすれば良いかを、語り合え多文化共生に対する考えの共有化が達成できた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

行政、滋賀県国際協会、他市国際交流協会（甲賀市、湖南市）、大学関係部署等に直接足を運び、この事業の意義に関して認識を共有してもらい、運営委員会、ネットワーク会議、各取組の内容を理解してもらい積極的に参加してもらえた。
地域住民への日本語教育の必要性の面では、7月9日に行ったベトナムDAYは、KIFAとベトナムコミュニティが一緒になって玉川学区まちづくり協議会に働きかけて共催を依頼し、事業が実現した。当日は多くの自治会関係者、地域住民が参加してくれ外国人との交流の実態に触れてくれたことの効果は大きい。

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

各取組の個別内容に関しても積極的にメディアに働きかけて取材を依頼していったので、取組2の市職員への研修会とボランティア市中学生施設団の草津案内、取組3の体験型クラス「防砂シェイクアウト」「交通安全について」「剣道体験」が各紙に取り上げられた。
特に4の「多文化共生フォーラム」は3紙の取材を受けられ、又ケーブルテレビZTVの取材を受けて放映されたことは、広報の大きな実効となった。

(5) 改善点、今後の課題について

3年間の事業を終えて最初に課題に感じた、多くの点は改善されたが今後も取り組まねばならない課題も見えてきた。
草津市内の3つの日本語教室の連携については、大いに進展し各教室の人的交流も進み、共催事業も実施できる関係になってきた。
行政内部への日本語教室の必要性の周知に関しても、今年度行政職員向けの研修会を開催された。
地域住民への日本語教室の必要性の周知に関しては、1つのまちづくり協議会ではあるが大きな協業イベントが実施出来たので、今後この流れを以下に残りの13学区のまちづくり協議会に広げて行くかが、大きな課題として残る。

(6) その他参考資料

参考資料として「運営委員会3回の議事録」「ネットワーク会議4回の議事録」「多文化フォーラム検討会議2回の議事録」「3年間の事業のまとめ」

の書面を添付します。

今回の事業に関連して作成したチラシ類も添付します。